

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	株式会社KF Table			代表者名	佐藤淳也
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名		連絡先電話番号	090-4633-8300
担当者役職	代表取締役	担当者氏名		連絡先E-mail	
住所	999-3511 山形県河北町谷地甲85				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	河北町	連絡先部署	農林振興課農業振興係		
担当者氏名	泉 政彦	連絡先電話番号	0237-73-2112	連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	食と農の需給マッチング支援事業
概要	農産物流通のDXを推進するにあたり、農業現場や消費現場に浸透させるための要点整理とともに、適切なデジタルツールの選定にあたって必要となる視点や留意点について、農家が理解できるようアドバイスをいただきたい。併せて、規格外農産物の活用、高付加価値化の方向性についても助言を得たい。		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成） AI活用 農林水産業 地域ビジネス		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年12月13日	支援・助言(実地)	10時00分	16時30分	30
				活動時間（分）	360
2-2. 派遣場所	会場名	午前：事務所 午後：まきの農園		最寄駅	山形空港
	所在地	山形県西村山郡河北町		最寄駅からの交通手段	空港シャトルバス

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	小出 範幸	
評価	大変良い	
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	事前のオンライン打合せでこちらの要望を的確に把握したうえで、農家と加工業者をつなぐ手段としてLINEを活用する具体的な提案をしていただいた。当日は机上の説明にとどまらず、実際に農家の現場を訪問し、写真の送り方や通知設定など実務レベルでの使い方を丁寧に説明していただき、その場で試験運用まで行うことができた。現場の状況や農家のITリテラシーを踏まえた実践的な助言であり、すぐに業務に活かせる内容であった点が非常に有益であった。	
アドバイザーへの要望事項	今回試験導入したLINEを活用した農家との情報共有の仕組みを、一部の農家だけでなく、より多くの生産者に広げていくため、高齢の農業者でも使いやすい運用方法や支援体制の設計について、引き続き助言をいただきたい。また、蓄積されたデータをどのように分析し、原料調達や加工品開発に活用していくかについても、実務的な視点での支援を期待したい。	

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	4人
属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数		2	2	

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	規格外野菜や廃棄予定の農産物の情報は、これまで電話や口頭でやり取りされており、「いつ・どの農家で・どの野菜が・どれくらい発生しているか」という情報が記録として残らず、属人化していた。そのため、加工業者として原料確保の見通しが立てにくく、規格外野菜の有効活用が進みにくい状況にあった。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	農家と加工業者の連絡窓口を一本化し、規格外野菜の発生情報を写真付きで記録・共有できる仕組みを構築することで、原料調達の見える化と、将来的な加工品開発につなげることを目指した。

アドバイザーに支援を受けた内容 （具体的にご記入下さい）	LINEを活用した農家との情報共有の方法について具体的な助言を受け、まきの農園の現地において、写真送信、数量の伝え方、通知設定などの実務的な使い方を指導いただいた。実際の農家と加工業者が同じ場で試験的に運用することで、現場で使える形に落とし込む支援を受けた。	
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	農家が規格外野菜の写真と簡単な情報をLINEで送信できるようになり、電話に比べて、相手の業務を妨げない形で情報共有が可能になった。また、やり取りが履歴として残るため、発生状況を後から確認できるようになった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	③事業に係るシステムの調達仕様書を策定できた
	LINEを活用した規格外野菜情報共有の仕組み	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	現時点では試験運用段階であり、蓄積された情報を分析して商品設計や仕入計画に反映するところまでは至っていない。また、LINEやスマートフォンの操作に不慣れな高齢の農業者も多く、すべて農家が同じ仕組みをすぐに利用できる状況にはなっていないため、今後は操作の簡素化や支援方法の工夫を含めた普及の進め方が課題として残っている。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（E X C E L や P D F での分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	今回は現地での実証的な支援を中心に実施したため、紙やWebによるアンケートは行っていない。代わりに、農家および加工業者との対話を通じて、使い勝手や課題を確認しながら運用を調整した。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	試験導入したLINEによる情報共有を継続し、対象農家を拡大しながら運用方法の改善を行う。	
4－4. 事業の最終的な目指す姿	農家から規格外野菜や余剰野菜の情報が自然に集まり、それをもとに加工業者が原料調達と商品開発を行い、廃棄を減らしながら地域内で農産物の価値が循環する仕組みを構築することを目指す。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

